
いざ行かん、下剋上！

0:02

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ござ行かん、下剋上！

【Zコード】

Z8414M

【作者名】

0:02

【あらすじ】

飼い猫が喋つたある日、志月達はもう一つの世界に紛れ込む！
しつき

破滅してゆく未来…、失われて行く現実…、今この時志月達が立ち上がる！

友人、居場所、そして『未来』を守るため、異色の三人と一匹のHンターテイメントストーリーが始まる…

驚愕、猫が喋った。

時は西暦2010年

「起きたまえ。」

太陽系第三惑星地球

「起きると言ひとひーが。全く呆れるでござるな。」

アジア大陸日本。

「とつとと起きやがれ」のカス！-！

首都東京で、ニモニアブ猫が飼い主の寝顔を蹴り飛ばした。

「ん・・・・・・あ？ いてー。あにすんだ・・・・・・・・・・・・

俺の名は結城志月。
ゆうき しづき

性別は生物学上男。

只今思春期真っ只中の高校一年生だ。

今日もちゃんと学校がある。
確かにある。

だが何故猫が起こしに来る。

ん？ つひ ひむ所が違う？

言ひな、俺が聞きたい。

紹介しておひつ。

この三毛でテテブな猫は俺の飼い猫、名をHドワードヒツ。ひつぱりした猫。飼い主に似るところが多いが、俺の体重は至つて標準だ。

まあ俺にとっては大切なペットの猫だ。

もう一度言ひ。

『猫』だ。

「……おー、Hドワード？ 今お前喋らなかつたか？」

神様ゼウス様仏様ヒヅカの俺の愚問が勘違いでありますひつ。ひつどうか！

「それがどうかしたかね。」

喋つちやつたー！ー！

「それよつ早よ支度せーーーせつかへこのわじが起じに来てやつたとこつのこと……。」

Hドワードはブツクサにこながら、でっぷでっぷと足音をたて俺の

部屋からでていった。

本日も晴天、飼い猫が喋りました。

驚愕、猫が喋った。（後書き）

こんばんはー新連載です。

結構前からこの二つの面白さかなー、と思いつながら少しづつ書いていたお話です。

内容もノマドハイ調で、なんか超次元です。重くなく、しかし軽々かず、ライト小説にしています。

少しでも皆様に楽しめるよう頑張りたいと思いますー。

こつものメンシ

俺の通り如月高校は、家から徒歩15分位の所にある。
あさりじゅく

「よー志月、おはよー。」

廊下を歩いていたら、後ろから爽やかな親友の声が聞こえた。

「おはよう、嵐。」

振り向くとそこには、声に劣らない整った顔と、かつてよく着けられた制服が目に入った。

名を京ヶ瀬嵐きよのなみかぜと言つ。

「ん? どうした? 猫に喋りかけられたみたいな顔して。」

「お前帰れー!」

只でさえ朝から重かつた足取りが余計に重くなつた。

だが上手がいた。

「おい祭。お前はよく人の机の上で堂々と胡坐こくざがかけるな。」

黒髪の前髪から彼女特有の猫目ねこめが俺を見上げる。

こいつの名前、それが中々珍しい、猫屋敷祭ねこやしきまつりと言つ。

「祭、おはよー。」

「ふむ、風か！おはよー。」

「俺はスルーか。」

ちょっと変わった友人達。
これが俺達の日常だ。

さてこの変なメンツで、どんな珍事件があるのやら。

惨劇のハジマリハジマリ（前書き）

相当久しぶりの更新ですみません！
色々と忙しくて放置していました……。
もう片方の小説も更新する予定なので宜しくお願いします！

惨劇のハジマリハジマリ

学校が終わり、何の因果か俺は京ヶ瀬と猫屋敷と帰っていた。

「む、志月、嵐。前から太った猫が歩いてくるぞー。」

でつぱでつぱと前方から歩いてくるその猫は、紛れもなく俺のばか猫だった。

に”やーー

しゃがれた鳴き声をあげて、俺の腕の中に入ってくる。おかしいな、何故喋らない。

「ああ、重、お前太ったな。」

「よし、エドかー久し振りだなあー・また太ってー。」

俺と嵐の言葉にイラつときたのかエドワードは顔をくしゃくしゃする。だが直ぐに口をかつ開いた。

何だと思いエドワードの口線をたどると、そこにはビリビリでもドアならぬ、大きな扉があった。

「　　・・・・・」

道のど真ん中に突然現れたそれは、怪しい以外の何物でもない為、

……早々に帰るとしよう。

「よし、入るぞ!」

ガチャと扉を開けたのは、他でもない。猫屋敷だ。

俺の体が地から浮き上がる。

に
”やつ！？

「あははー・おもしれー！」

どんどん開いた扉に吸い込まれて行く。

「うむ！なかなか出来たアトラクションだ。」

ここから馬鹿か。

俺は腕の中で既に放心状態に陥っているエドワードを離さないよう
に、腕に力を込める。

扉はもう目の前。

パタンと扉が閉まつた。

たどり着いた場所

田を開けるとそこは、いつもの俺の部屋だった。

「何だ夢か？」

やけにリアルな夢だった。

……しかし本当に夢か？

「何で嵐と祭が居るんだ?」

俺達は結構な格好で氣絶していたらしく

してて何かあるんだって?」

て。」「いらっしゃりと一緒に帰ってた。」「ジーラーが来た。ドアを馬鹿が開け

「……なんて事だ。」

ん？…あれ？エドワードは！？

卷之三

あいつはテブと言つと、突進して来る。

「エド？ 本当に何処に居るんだ？」

改めて部屋を見渡す。

「俺の部屋と全くおんなじだよな…。やつらの扉は何だつたんだ?」

大抵あーゆーのは、異世界に飛び込んで可愛い女の子出てきて、魔王ぶつ倒してうんたらかんたら……。

「いやー流石に魔王じゃないんだなー!」

「だよねー。…って誰だ今の声。

「え?」

声のした方を振り替える。

「やあ、起きたみたいだね。」

部屋のドアの所に、俺より小柄で女顔の、俺達と同じ制服を来た少年が立っていた。

「…」

ハードワードを持って。

「だ！？だれだ！？」

濃紺のブレザーに赤と銀のシマシマネクタイ、エンブレムも如月高校の物に間違いない。

いや確かにそうだけだ。

「君、誰？」

ここ俺の部屋。

「うん、僕の名前は鳥丸忍。」

宣しくね、って意味わかんねーよつ！……意味わかんねーよ！

僕は鳥丸忍。

如月高校に通う高校一年生。

今日は学校が終わってから、ニヤニヤと氣色の悪い顔をしてる太陽の下を歩いてたんだ。

「ん？ 何だらうあれ？」

前方に大きな扉があつた。

「なんだろう？ あ、もしかして、異世界への扉だつたりして！」

んな訳ないない。

ガチャつ！

え？

「うあつ！！！」

突然扉が開いて、三人の人と太った猫が出てきた。

頭が痛い。

「んじゃ俺達がこの世界に来たのか。」

俺と忍は丸いテーブルを挟んでいた。これも俺の部屋にあったのと同じだ。

「うん、僕ビックリしちゃったよ。同じ制服来た子達がいきなり吹っ飛んできたんだもん。」

忍はオレンジジュースの入ったコップを俺の前に置いてくれる。

後ろを見ると嵐と祭のまだ寝てやがる。呑気な奴等だ。

「置いてくるのも何だし、三人まとめて片手でちよちよ一いつと

ね。

「

何こいつ凄い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8414m/>

いざ行かん、下剋上！

2011年10月6日22時47分発行